

與使判官佐伯宿禰三野共捉縛賊使及同惡之徒尋將軍日下部宿禰子麻呂佐伯宿禰伊達等率數百騎而至燒斷勢多橋以故賊不得渡江奔高島郡以功授正五位上勳三等

〔榮花物語〕

月宴廣幡のみやすとごろ○村上更源計子

みかどおぼしめいたりける内よりかくなん

あふさかもはてはゆき、のせきもゐすたづねてとひこきなばかへさじといふうたをおなじやうにか、せ給ておほんかたにたてまつらせ給ひけるこの御返事をかたさまぎまに申させ給ひけるに廣幡のみやすどころはたきものをぞまいらせ給たりけるさればこそなをこゝろことにみゆれとおぼしめしけりいとさこそなくともいづれのおほんかたとかやいみじくえたて、まいり給へりけるはしもなこそそのせきもあらまほしくぞおぼされけるおほんおほえもひごろにおとりにけりとぞきこえはべりし

○按ズルニ此歌ハ香冠折句ニテアハセタキモノスコシノ十字ヲ句ノ上下ニ置ケルナリ
〔古事談〕勇七仁和寺式部卿宮御許ニ將門參入具郎等五六人云々出御門之時貞盛平又參入不相具郎等則參御前申云今日郎等不候尤口惜事也郎等アリセバ今日殺シテマシ此將門ハ天下ニ可引出大事者也ト申ケリ

〔枕草子〕やしろは

ありどをしの明神略○中此ありどをしとつけたる心は誠にやあらんむかし略○中中將わかれどざえありいたり賢くして時の人におぼす成けりもろこしの帝この國のみかどをいかではかりて此國うちとらんとて常に心みあらがひ事をしてをくり給ひけるにつやくとまろにうつくしげにけづりたる木の二尺ばかりあるをこれがもと末いつかたぞととひ奉たるにすべてえるべきやうなければ帝おぼしめしわづらひたるにいとおしくておやのもとにゆきて